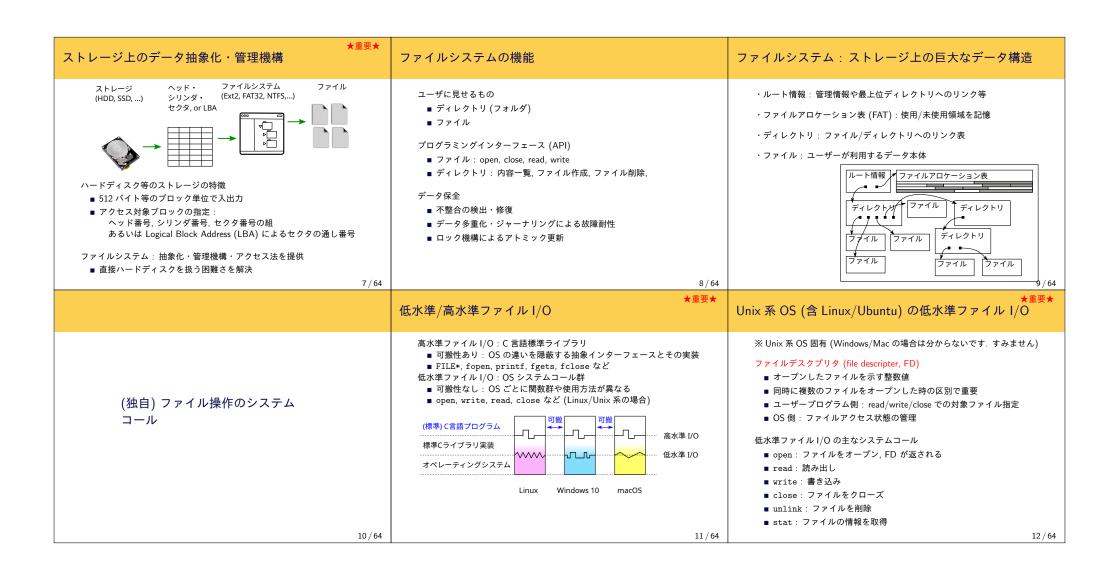
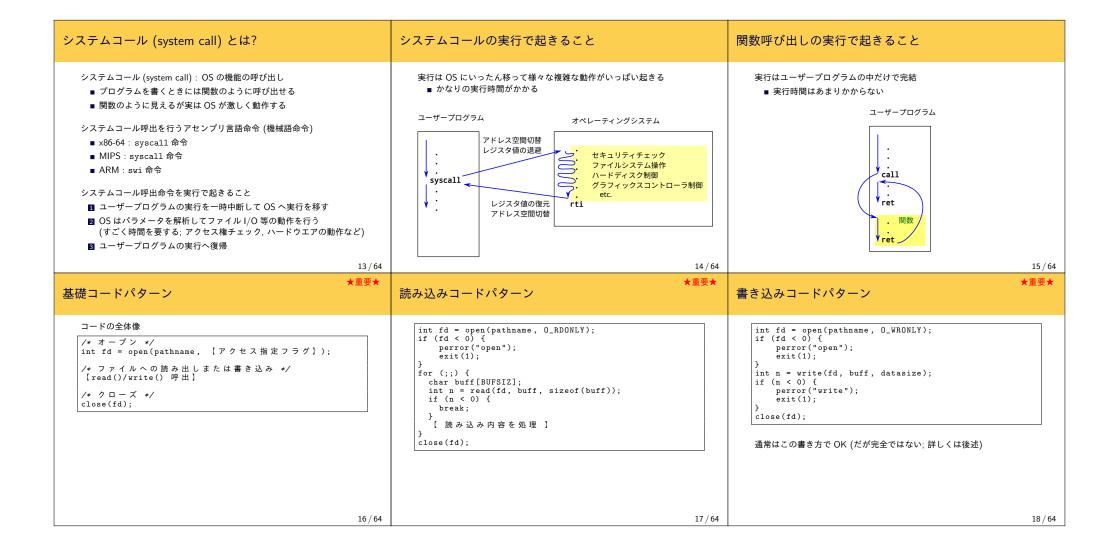
	もくじ	今回 (#14) の内容:シラバスでの該当部分
#14 ファイルシステムのプログラミング 2022 年度 / プログラミング及び実習 III   角川裕次	<ul> <li>【独自) ファイルシステムとは</li> <li>【独自) ファイル操作のシステムコール         <ul> <li>fstatus.c: ファイル情報を表示する</li> </ul> </li> <li>【独自) ファイルとディレクトリ             <ul> <ul> <li>files.c: カレントディレクトリのファイル一覧</li> <ul> <li>dirlist.c: ファイル一覧(種別付き)</li> </ul> </ul></ul></li> </ul>	小テーマ: ファイルシステムのプログラミング 第 22 回: ファイルとディレクトリ 第 23 回: ファイルシステム 第 24 回: ファイル操作のシステムコール
1/64	2/64	3 / 64
重要概念リスト	今回の実習・課題 (manaba へ提出)	
■ ファイルシステム ■ ディレクトリ ■ 高水準 I/O と低水準 I/O ■ システムコール open/read/write/close/unlink/stat ■ stat 構造体 ■ ファイルディスクプリタ ■ ディレクトリアクセス関数群 opendir, readdir, closedir ■ dirent 構造体	実習内容と課題内容は講義途中に提示します (作成したファイル類は manaba に提出)	(独自) ファイルシステムとは
4/64	5 / 64	6 / 64



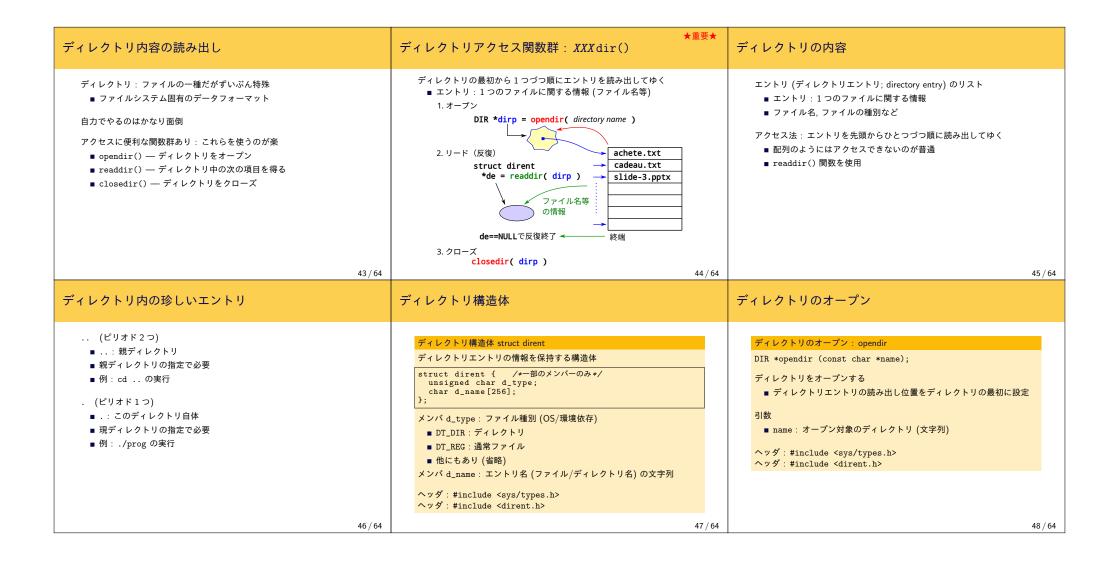


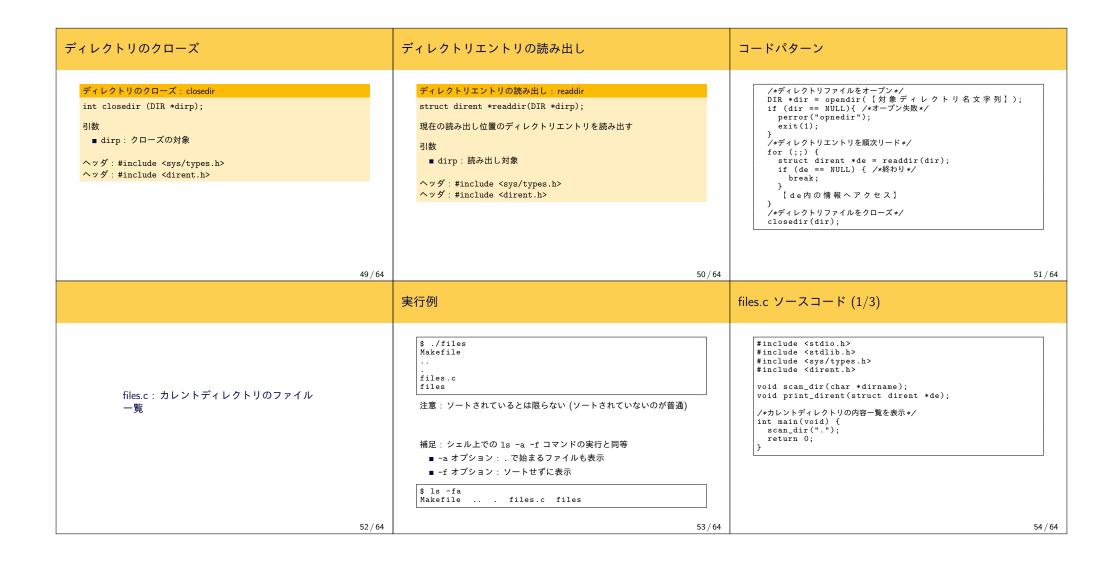
アクセス法の指定  ■ O_RDONLY  ■ O_RDONLY  読み出し限定 (Read-Only) でオープン  ■ O_WRONLY  書き込み限定 (Write-Only) でオープン  ■ O_RDONLY  読み出し限定 (Read-Only) でオープン  ■ O_WRONLY  書き込み限定 (Write-Only) でオープン  ■ O_RDONLY  書き込み限定 (Write-Only) でオープン  ■ O_RDWR  読み・書き可能 (Read-Only) でオープン  ■ O_RDWR  読み・書き可能 (Read-Only) でオープン  ■ O_RDWR  に 書き込み限定 (Write) でオープン  アクセス法の追加指定 (ピットごとの論理和で追加指定が可)  ■ O_APPEND  ファイル未尾に書き込み位置を設定	ファイルをオープン: open 関数 int open(const char *pathname, int flags, mode_t ファイルをオープンしてファイルディスクプリタを返す 引数 ■ pathname: アクセス対象のファイル名(文字列) ■ flags: オープン時のアクセス法の指定 ■ mode: ファイル新規作成時のモード指定(後述)	mode);
■ オープンしたファイルディスクブリタ ■ -1: エラーの場合  ■ -1: エラーの場合  Nyダ: #include <sys types.h=""> Nyダ: #include <sys stat.h=""> Nyダ: #include <sys fcntl.h="">  M ■ fd = open("log.txt", 0_WRONLY 0_TRUNC);</sys></sys></sys>	返却値  ■ オープンしたファイルディスクプリタ  ■ -1: エラーの場合  ^ッダ: #include <sys types.h=""> ^ッグ: #include <sys stat.h=""> ^ッグ: #include <sys fcntl.h=""></sys></sys></sys>	21
イル新規作成時のモード指定 mode creat システムコール	open: システムコール? 関数?	
F成されるファイルのパーミッションを指定 (詳細は省略)  S_IRUSR — 所有者 (user) にリード許可 (read)  S_IWUSR — 所有者 (user) にライト許可 (write)  S_IXUSR — 所有者 (user) に実行許可 (execute)  S_IXUSR — 所有者 (user) に実行許可 (execute)  S_IRUSR — 同一グループ (group) のユーザにリード許可 (read)  S_IWGRP — 同一グループ (group) のユーザにライト許可 (write)  S_IXGRP — 同一グループ (group) のユーザに実行許可 (execute)  S_IXGRP — 同一グループ (group) のユーザに実行許可 (execute)  S_IXOTH — 他ユーザ (other) にリード許可 (write)  S_IXOTH — 他ユーザ (other) にライト許可 (write)  S_IXOTH — 他ユーザ (other) に実行許可 (execute)  ※ビットごとの論理和で複数の同時指定が可能  Cht fd = open("f.txt", 0_WRITE 0_CREAT, S_IRUSR S_IWUSR S_IXUSR);	Q. 関数と同じに見えるけど本当にシステムコールなの?  A. 関数の形で呼び出せる仕組みにしてあるよ ■ open 関数の内部でシステムコール呼出しを実行 ■ ソースコードレベルでは関数/システムコールの違いの意 ライブラリ関数のソースコードはたぶんこう (憶測) ■ open 関数を作ってその中でシステムコール呼出  int open() { システムコールパラメータをレジスタに設定; syscall命令; return 実行結果のファイルディスクブリタ; }	<b>意識は不要</b>

#### Q. 高水準 I/O の fopen はどうなっているの? close システムコール read システムコール A. ライブラリ関数のソースコードはたぶんこう (憶測) ファイルをクローズする: close ファイルを読み出す:read ■ fopen 関数を作ってその中で open 関数を呼出 関数 int close(int fd); 関数 int read(int fd, void \*buf, size\_t count); ■ open 関数の中でシステムコールが呼び出される ファイルから count バイトを読み出して buf へ格納 FILE \*fopen(...) { FILE \*fp = FILE構造体を確保; ■ fd: クローズ対象のファイルディスクプリタ int fd = open(...); ■ fd:読み出し対象のファイルディスクプリタ fpに値を適切に設定 ■ buf:ファイル内容の格納先を示すポインタ return fp; ■ 0: クローズ成功 ■ count: 読み出すバイト数 ■ -1: クローズ失敗 返却值 ヘッダ: #include <unistd.h> ■ 読み出しに成功したバイト数 ■ 0:ファイル終端の場合 ■ -1: エラーが発生した場合 ヘッダ: #include <unistd.h> 25 / 64 26 / 64 27 / 64 書き込みコードパターン (その2) unlink システムコール write システムコール 一度の write 呼出で全てが書かれない場合への対応策 ファイルへ書き込む: write 通常ファイルをディレクトリエントリから削除: unlink ■ 特に書き込み先がネットワーク越しの場合に起きることあり 関数 ssize\_t read(int fd, const void \*buf, size\_t count); 関数 int unlink(const char \*pathname); int fd = open(pathname, O\_WRONLY); buf から count バイトをファイルへ書き込む 対象ファイルのリンクカウントを1減らす if (fd < 0) { perror("open"); ■ リンクカウントが 0 になれば実際にファイルを削除 exit(1); ■ (そうれなければファイルはまだ削除されない) ■ fd: 書き込み対象のファイルディスクプリタ int done = 0; ■ buf:書き込み内容の格納先を示すポインタ while (done < datasize) { 引数 int n = write(fd, &buff[done], datasize-done); ■ count : 書き込むバイト数 ■ pathname: 削除対象のファイル if (n < 0) { perror("write"); 返却值 ※ディレクトリは対象に出来ない (通常ファイルに限定) exit(1); ■ 書き込みに成功したバイト数 done += n; ■ 0:全く書き込みがなされなかった場合 ■ 0:成功した場合 ■ -1: エラーが発生した場合 close(fd); ■ -1: エラーが発生した場合 書き残しがなくなるまで残り部分の書き込みを繰り返す ヘッダ: #include <unistd.h> ヘッダ: #include <unistd.h> ■ write 呼出で実際に書かれたバイト数を勘定 28 / 64 29 / 64 30 / 64

### stat システムコール stat 構造体 ファイル種別の区別を表示する例 stat システムコールによるファイル情報の格納で用いる 通常ファイル/ディレクトリかの2種を判別 ファイルの情報を取得:stat 構造体のメンバ (主要なもののみを抜粋) void print\_file\_type(char \*pathname) { 関数 int stat(const char \*pathname, struct stat \*statbuf); struct stat sb; struct stat { stat(pathname, &sb); mode\_t st\_mode; /\* ファイルタイプとモード \*/ 引数 switch (sb.st\_mode & S\_IFMT) { nlink\_t st\_nlink; /\* ハードリンク数 \*/ case S\_IFPIR: printf("regular file\n"); break; case S\_IFPIR: printf("directory\n"); break; default: printf("other file\n"); break; uid\_t st\_uid; /\* ファイル所有者のユーザ*ID \*/* gid\_t st\_gid; /\* ファイル所有者のグループ*ID \*/* ■ pathname: 削除対象のファイル ■ statbuf:情報の格納先 (stat 構造体へのポインタ;後述) off\_t st\_size; /\* ファイルサイズ(バイト数) \*/ struct timespec st\_atim; /\* 最終アクセス時間\*/ struct timespec st\_mtim; /\* 最終更新時間\*/ ■ 0:成功した場合 struct timespec st\_ctim; /\* 最終ステータス変化時間\*/ 通常ファイル: 以下のファイルなどが該当 ■ -1: エラーが発生した場合 ■ PDF ファイル (.pdf) ■ ワープロ文書 (.docx), 表計算ファイル (.xlsx) メンバ st\_mode の値 (主なもの) ヘッダ: #include <sys/types.h> ■ 画像ファイル (.jpeg, .png, .gif) ■ S\_IFREG — 通常ファイル ヘッダ: #include <sys/stat.h> ■ テキストファイル (.txt) ■ S\_IFDIR — ディレクトリ ヘッダ: #include <unistd.h> ■ C 言語ソースファイル (.c. .h) ■ S IFMT — 値の取り出し用のビットマスクパターン ■ Python ソースファイル (.py) ■ 実行バイナリファイル 32 / 64 33 / 64 fstatus.c:ファイル情報を表示する 実行例(1) 指定ファイルの情報を stat システムコールで入手 & 表示 ファイル名の指定に dirlist.c を入力した場合 \$ ./fstatus 表示する情報 ファイル: dirlist.c ファイルタイプ : 通常ファイル 所有者のユーザID : 1001 ■ ファイルタイプ (通常ファイル/ディレクトリ/他) ■ 所有者のユーザ ID とグループ ID 所有者のループID: 1001 ファイルサイズ : 1197 バイト 最終アクセス時間 : Thu Jul 1 02:33:16 2021 ■ ファイルサイズ fstatus.c:ファイル情報を表示する 最終アクセス時間 最終更新時間 : Tue Nov 24 08:14:34 2020 ■ 最終更新時間 ファイル名の指定に xxx を入力した場合 \$ ./fstatus ファイル:xxx NO SUCH FILE: xxx ※ 対象ファイルの有無や表示内容: ひとりひとり違う 34 / 64 35 / 64 36 / 64

```
ソースコード fstatus.c (1/4):
                                                                                                                    ソースコード fstatus.c つづき (2/4)
実行例 (2)
                                                              ヘッダ、定数、プロトタイプ宣言
                                                                                                                         main 関数
   ファイル名の指定に /home を入力した場合
                                                             #include <stdio.h>
                                                                                                                        /* main 関数 */
  $ ./fstatus
                                                             #include <stdlib.h>
                                                                                                                        int main(void) {
                                                                                                                         char fname[MAX_FNAME];
   ファイル:/home
                                                             #include <string.h>
   ファイルタイプ : ディレクトリ
                                                             #include <time.h>
                                                                                                                          /* ファイル名の読み込み */
   所有者のユーザID: 0
                                                             #include <sys/types.h>
                                                                                                                         get_filename(fname, MAX_FNAME);
                                                             #include <dirent.h>
   所有者のループID: 0
                                                                                                                          /* 指定ファイルの情報を表示 */
   ファイルサイズ : 4096 バイト
最終アクセス時間 : Wed Jun 30 23:18:46 2021
                                                             #include <sys/stat.h>
                                                                                                                         fstatus(fname);
                                                                                                                         return 0;
                                                             #define MAX_FNAME 1024
   最終更新時間 : Sat May 8 11:24:39 2021
                                                             void get_filename(char *fname, int n);
                                                             void fstatus(char *fname);
   ファイル名の指定に /dev/null を入力した場合
  $ ./fstatus
   ファイル:/dev/null
   ファイルタイプ : その他
   所有者のユーザID: 0
   所有者のループID: 0
   ファイルサイズ : 0 バイト
   最終アクセス時間 : Mon Jun 21 19:12:35 2021
   最終 更新 時 間
                 : Mon Jun 21 19:12:35 2021
   ※ 対象ファイルの有無や表示内容: ひとりひとり違う
                                                                                                             38 / 64
                                                                                                                                                                        39 / 64
                                                          ソースコード fstatus.c つづき (4/4)
ソースコード fstatus.c つづき (3/4)
                                                              fstatus 関数 — ファイル情報の表示
    get_filename 関数 — ファイル名の読み込み
   /* ファイル名の読み込み */
                                                             /* 指定ファイルの情報を表示 */
                                                             void fstatus(char *fname) {
   void get_filename(char *fname, int n) {
/* プロンプト表示 */
                                                               struct stat sb;
    printf("ファイル:"):
                                                               if (stat(fname, &sb) < 0) {
                                                                 printf("NO SUCH FILE: %s\n", fname);
     /* ファイル名読み込み */
     if (fgets(fname, n, stdin) == NULL) {
                                                                 return;
      exit(1):
                                                                                                                               (独自) ファイルとディレクトリ
                                                               /* 情報を表示 */
                                                               printf("ファイルタイプ : ");
     /* 行末の ハn, を削除 */
    char *p = strchr(fname, '\n');
if (p != NULL) {
                                                               switch (sb.st_mode & S_IFMT) {
case S_IFREG : printf("通常ファイル\n"); break;
                                                               case S_IFDIR : printf("ディレクトリ\n"); break;
      *p = '\0';
                                                               default:
                                                                            printf("その他\n");
                                                              printf("所有者のユーザID : ¼d\n", sb.st_uid);
printf("所有者のループID : ¼d\n", sb.st_gid);
printf("ファイルサイズ__ : ¼ld パイト\n", sb.st_size);
                                                               printf("最終アクセス時間 : %s", ctime(&sb.st_atime));
                                                               printf("最終更新時間 : %s", ctime(&sb.st_mtime));
                                                             関数 ctime(): 日時を文字列に変換
                                                   40 / 64
                                                                                                             41 / 64
                                                                                                                                                                        42 / 64
```





```
files.c ソースコード (3/3)
ディレクトリの先頭のエントリから順次表示
                                                         /*ディレクトリエントリを表示*/
   /*指定ディレクトリをスキャンして表示関数を呼ぶ*/
                                                        void print_dirent(struct dirent *de)
   void scan_dir(char *dirname) {
                                                         printf("%s\n", de->d_name);
    /*ディレクトリファイルをオープン*/
    DIR *dirp = opendir(dirname);
    if (dirp == NULL){ /*オープン失敗*/
      perror("opnedir");
                                                        単に d_name (ファイル/ディレクトリ名) を表示するだけ
                                                                                                                    dirlist.c:ファイル一覧 (種別付き)
      exit(1);
                                                        各ファイルの他の情報の表示も簡単に実現できますよね
    ,
/*ディレクトリエントリを順次リード*/
    for (;;) {
      struct dirent *de = readdir(dirp);
      if (de == NULL) { /*終わり*/
       break;
      print_dirent(de);
    /*ディレクトリファイルをクローズ*/
    closedir(dirp);
                                                                                                    56 / 64
                                                                                                                                                          57 / 64
                                                                                                           print_dirent 関数の実装
dirlist.c:ファイル一覧を種別付きで表示
                                                     dirlist.c: 実装方針
   機能: ファイル種類 (通常ファイル / ディレクトリ) も表示
                                                        以下は files.c と同じ
                                                                                                              /*ディレクトリエントリを表示*/
    ■ 通常ファイル: 行頭に F を表示
                                                          ■ main 関数
                                                                                                              void print_dirent(struct dirent *de)
    ■ ディレクトリ: 行頭に D を表示
                                                          ■ scan_dir 関数
                                                                                                               switch (de->d_type) { /*種別*/
                                                                                                                case DT_REG: /*通常ファイル*/
                                                                                                                 printf("F %s\n", de->d_name);
                                                        ディレクトリエントリの表示部分 (print_dirent 関数) だけを変更
   実行例
                                                                                                                 break;
                                                                                                                case DT_DIR: /*ディレクトリ*/
  $ ./dirlist
                                                        ファイル種別: ディレクトリ構造体 struct dirent のメンバ d_type
   F Makefile
                                                                                                                 printf("D %s\n", de->d_name);
  D ..
                                                          ■ DT_REG: 通常ファイル
                                                                                                                 break;
                                                                                                                          /*他*/
  D.
                                                                                                               default:
                                                          ■ DT_DIR: ディレクトリ
                                                                                                                 printf("? %s\n", de->d_name);
  F dirlist.c
  F files.c
                                                                                                                 break;
                                                                                                               }
  F files
   F dirlist
                                               58 / 64
                                                                                                    59 / 64
                                                                                                                                                          60 / 64
```

## 番外編の課題 1 番外編の課題 2 ディレクトリ内容の入れ子を表示するプログラムの作成 指定ファイルを再帰的に探してどこにあるかを表示するプログラムを作成 \$ xtree \$ xfind ファイル名: call-1-syscall.svg ./Figs/chap00f-filesys/call-1-syscall.svg | |-- hello.c | '-- x-11.c -- Figs おわり | |-- Makefile |-- makerile |-- chap00-intro | |-- book-clang-shibata.jpg | '-- expl-wsl.PNG |-- chap00a-arch |-- cpu-mem-01-overview.svg -- chap00f-filesys | |-- call-1-syscall.pdf | |-- call-1-syscall.svg |-- Makefile |-- pg3-01-arch.tex |-- pg3-02-func.tex '-- tex2pdf.sh 61 / 64 62 / 64 63 / 64

# 番外編の課題3

指定のファイルの内容をすべてメモリに読み込む関数の作成

- int read\_file\_to\_buffer(char \*f, struct buffer \*bp);
- 読み込み成功時に 0, 失敗時に-1 を返す
- 読み込み対象のファイル名は f
- 実際のファイル内容とファイルサイズは引数の構造体変数に記録
- 読み込みのための構造体

```
struct buffer {
 unsigned char *data; /* ファイル内容 */
 size_t size; /* ファイルサイズ */
};
```

### テキストエディタ構造概略

- int cursor でカーソル位置を定義
- bp->data[cursor] 付近の文字データを画面上に描画
- キーボード操作により bp->data[cursor] を変更して再描画
- 文字挿入、文字削除、行削除など...

64 / 64